



## 目次

- I 概況
  - 1. 沿革
  - 2. 事業所一覧
- II 基本方針
  - 1. 組織・会議
  - 2. 職員状況
- III 運営報告
  - 1. 事業部全体
  - 2. 各事業所
- IV 地域貢献活動
- V 教育研修
- VI 令和6年度 事業計画



# I 概況

## 1. 沿革

昭和 56年 5月(1981)	精神障害回復者社会復帰施設「はまゆう寮」開所
平成 5年 6月(1993)	沼津中央病院精神障害者共同住居「カーサかぬき」開所(家族会運営)
平成 9年 4月(1997)	グループホーム「ふじみ」開所
平成 14年 2月(2002)	田方・ゆめワーク開所(通所授産施設、地域活動支援センター)
平成 14年 4月(2002)	「コーポ狩野」福祉ホームB認可
平成 15年 4月(2003)	地域生活支援センター「なかせ」開所 地域生活支援センター「いとう」開所
平成 16年 4月(2004)	サポートセンター「ほっと」開所 グループホーム「ふじみⅡ」開所
平成 17年 10月(2005)	「カーサかぬき」から法人運営としてグループホーム「カーサ岡の宮」開所
平成 18年 3月(2006)	サポートセンター「ほっと」移転
平成 18年 10月(2006)	障害者自立支援法に基づき各名称をサポートセンターゆめワーク・なかせ・いとうに変更
平成 20年 4月(2008)	サポートセンター「いとう」伊東市観光会館へ移転
平成 20年 5月(2008)	就労継続支援B型事業所「就労支援事業所かのん」開所
平成 21年 4月(2009)	小規模作業所「ワークショップまごころ」開所
平成 22年 4月(2010)	「ワークショップまごころ」就労継続支援B型事業所へ移行 従たる事業所「クリーム・ド・クオーレ」開所 サポートセンター「ほっと」移転
平成 23年 4月(2011)	サポートセンター「なかせ」三島分室開所
平成 24年 4月(2012)	「就労支援事業所かのん」事務所・作業所移転 通所授産施設「田方・ゆめワーク」就労継続支援B型事業所へ移行
平成 27年 4月(2015)	サポートセンター「なかせ」長泉分室を長泉町役場内に開所
平成 28年 3月(2016)	「コーポ狩野」新棟完成・移転、ケアホームコーポ狩野からグループホームコーポ狩野へ名称変更
平成 29年 5月(2017)	サポートセンター「いとう」熱海駅前の熱海第一ビルに移転
平成 30年 4月(2018)	サポートセンター「ほっと」富士市日乃出町へ移転 サポートセンター「なかせ」三島分室 2階から4階へ移転 「ワークショップまごころ」同ビル2階に作業所増設
令和 元年 8月(2019)	グループホームコーポ狩野サテライト(フルール)開所
令和 2年 4月(2020)	サポートセンター「なかせ」三島分室を組織改編、名称変更し、サポートセンター「ひまり」開所
令和 2年 10月(2020)	サポートセンター「なかせ」自立生活援助事業開始
令和 3年 3月(2021)	サポートセンター「なかせ」長泉分室閉所
令和 4年 6月(2022)	グループホームコーポ狩野サテライト(フルール)閉所
令和 4年 8月(2022)	グループホームふじみⅡ閉所
令和 5年 4月(2023)	「サポートセンターいとう」から「サポートセンターりりぶ」に名称変更

## 2. 事業所一覧

### 本部

沼津市中瀬町 17-11

〒410-0811 TEL055-931-7032

FAX055-934-1697



### 相談支援・地域活動支援センター

#### サポートセンター

なかせ 沼津市中瀬町 17-11

TEL055-935-5680

FAX055-935-6150

りりぶ 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F

TEL0557-82-5680

FAX0557-82-5681

ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

ほっと 富士市日乃出町 165-1 サンミック静岡ビル 104

TEL0545-32-8160

FAX0545-32-8165

ひまり 三島市一番町 7-19 高野ビル 4F

TEL055-991-1180

FAX055-991-1181

### 共同生活援助

#### グループホーム

カーサ岡の宮

沼津市岡宮 612-1

はまゆう寮

沼津市中瀬町 17-11

ふじみ

富士市厚原 1138-6 ムーンビームス

コーポ狩野

沼津市中瀬町 24-1

TEL055-933-1038

FAX055-933-3955

### 就労継続支援 B 型

かのん

沼津市中瀬町 19-20

TEL055-933-8500

FAX055-933-8501

(軽食・喫茶 花のん)

沼津市中瀬町 18-28

TEL055-933-8502

ワークショップまごころ

三島市字エビノ木 4745-456

TEL・FAX055-985-2666

(クリーム・ド・クオーレ/作業所) 三島市一番町 7-19 高野ビル 1F/2F

TEL・FAX055-976-9000

田方・ゆめワーク

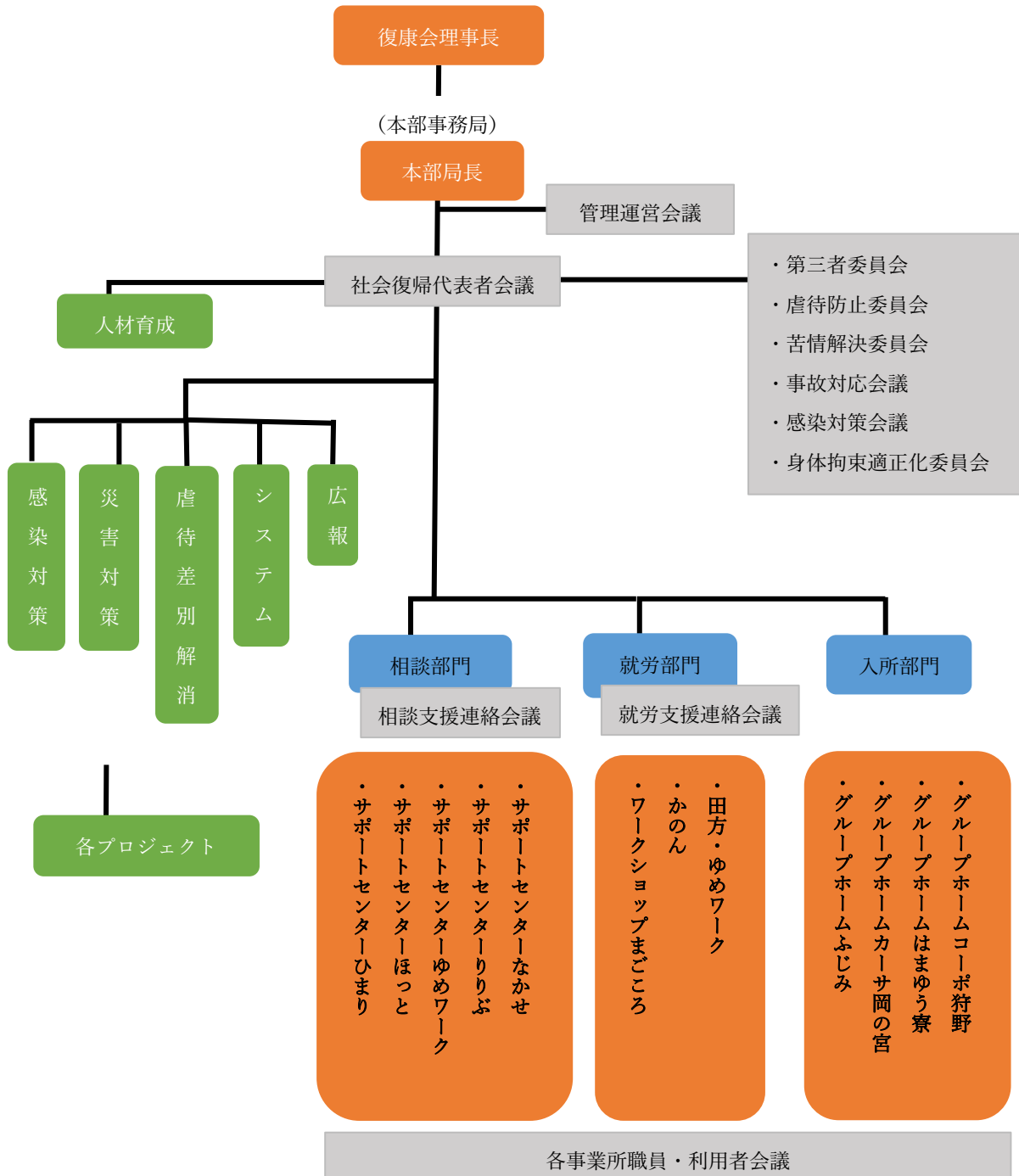
伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

## II 基本方針

### 1. 組織、会議



## 2. 職員状況

① 令和5年度入職者（他部署から事業部への異動も含）

正：4名

準・非：9名

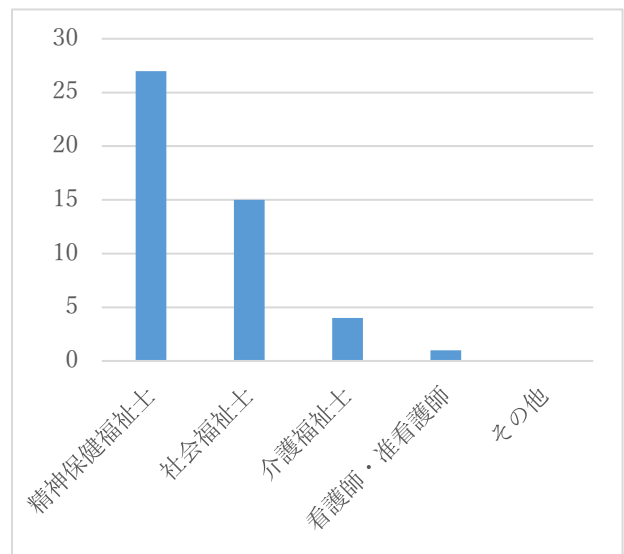
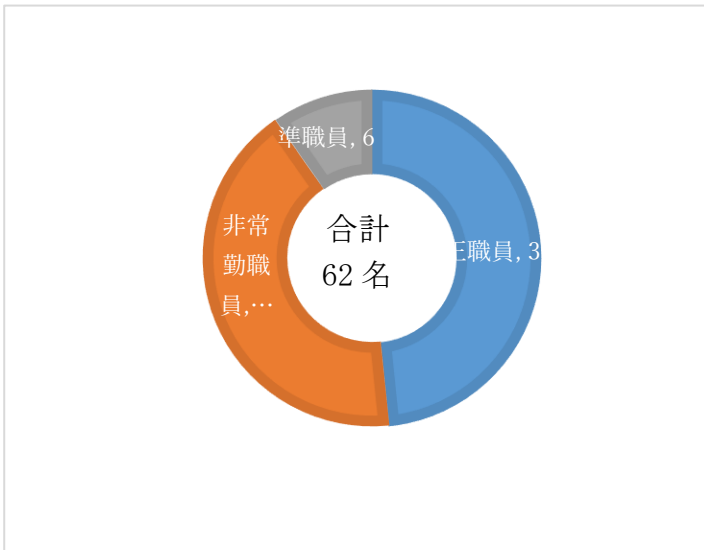
② 令和5年度退職者（他部署へ異動も含）

正：3名

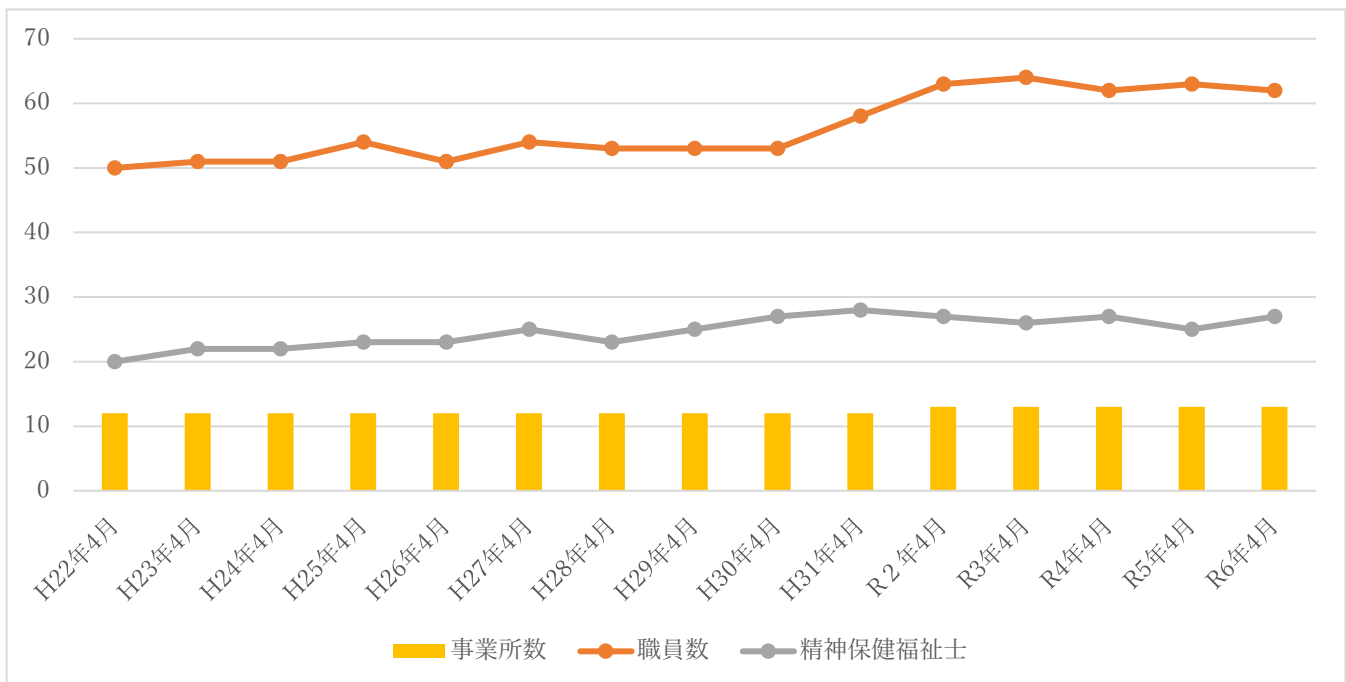
準・非：6名

③ 正・準・非職員比（R6年4月1日）

④ 有資格者（重複有）



⑤職員状況等経過



## Ⅲ 運営報告

### 1. 事業部全体

#### 令和5年度の目標達成度

##### 運営方針

誰もが自分らしく暮らす事のできる地域共生社会の実現を目指す。そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、障害者に寄り添う包括的な支援を行う。

また、地域や障害者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員と共にデザインする事でチーム意識ややりがいを持てるような、組織の強化に取り組む。

##### 重点目標

- ①障害者の人権を守るために何が出来るかを常に考えた支援を行う
- ②ピアスタッフの更なる雇用と働きやすい環境づくり
- ③災害感染対策の見直しと地域との協働
- ④人材確保のためのリクルート体制整備

令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策はしつつも、新たな生活様式で日々過ごすことになった。

就労継続支援事業は徐々に利用者数が増加し、作業の工夫などもあり、工賃も少しながら増加傾向をたどる。定期的に通所される利用者が戻ってきたことで平均利用人数は少し増加したと考えられる。

共同生活援助事業は長期入院後の新規入所があった。また同施設では退所に向けた支援も継続的に行い、サービス管理責任者と相談支援専門員が役割分担して本人の望む生活へ向けた。一方で高齢化による病気、ケガから退所した利用者もいた。

相談支援事業では個別支援を充実、地域自立支援協議会への参画等、これまで以上に多忙をきわめた。ピアスタッフが働きやすい環境づくりやどのような業務をしていくか等の検討を重ねてきた。

人材確保のためのリクルート体制整備はできず、慢性的な人員不足ではある。

#### 事業部職員人材育成

##### ①職員研修

職員研修は事業所単位での法定研修等年間計画を立案し行っている。事業所ごとに職員が講師をする、動画配信サイトから有効そうなテーマに沿った研修内容を探してみる等工夫をしてきた。

食品を扱う事業所や生活の場である事業所が多いため感染対策、食品衛生等の研修も行っている。また、昨今話題に尽きない虐待を防止する為に、虐待について、対応の仕方についても重点を置いてきた。これらの事は研修だけでなく、職員間の日々の相互点検が必要と考える。

##### ②目標管理シート作成

毎年事業部全体の重点目標⇒各事業所の事業目標⇒全職員の目標を年度初めに掲げ、年2回事業所管理者と面接を行いながら目標達成度を確認している。全ての職員が自身の目標を掲げる事で、本人も管理者も1年間の達成が見える化し、やりがいやスキルアップにつながっている事を実感する。

##### ③県法定研修受講

相談支援従事者初任者研修  
相談支援従事者現任研修  
主任相談支援専門員研修  
サービス管理責任者基礎研修  
サービス管理責任者更新研修  
虐待防止研修

#### 虐待、苦情件数、報告会等

今年度は久しぶりに第三者委員との報告会を対面で行った。虐待報告はなかったが、事業部全体で苦情要望が11件あった。対応での相互の行き違が多く、その場で解決できたものばかりであった。虐待防止委員会で共有し、改めて対話の重要性や職員間の支援の共有等を行っている事で第三者委員からは特段の意見はなかった。



## ふくむすび（事業部広報誌）

事業部全体の広報誌（月1回）を発行。今年度も12回発行。

### 《トピックス》

- 4月 「開所20年が過ぎました」  
サポートセンターなかせ
- 5月 「ピアスタッフ2名が入职しました」  
就労支援事業所かのん
- 6月 「三島市基幹相談支援センター連携会議」  
サポートセンターひまり
- 7月 「グループホームふじみ紹介」  
サポートセンターほっと
- 8月 部長着任挨拶
- 9月 「ワークショップまごころ紹介」  
就労支援事業所ワークショップまごころ
- 10月 「中瀬町の水神社祭典に参加しました」  
グループホームコーポ狩野
- 11月 「静岡県ピア交流会」  
サポートセンターなかせピアスタッフ
- 12月 「秋ふく祭り2023」  
秋ふく祭り実行委員

### 令和6年

- 1月 新年あいさつ
- 2月 「秋ふく祭り表彰式」  
秋ふく祭り実行委員会
- 3月 「社会復帰事業部職員研修会報告」  
研修担当



## （委託事業）

### 駿東田方圏域スーパーバイザー事業

平成25年度より静岡県の委託を受け、駿東田方圏域（6市4町）の広域的課題の共有や、障害福祉サービスの総合的調整及び推進等に関して協議・検討する体制の整備を県と共に実施。

重心部会や地域移行部会等、県から圏域へのつながりを意識した取り組みを行ってきたが、地域協議会については体制も違うため、意見の吸い上げや落とし込みに課題が残った。

就労部会設置に向けた動きとして、5年度は各地域自立支援協議会就労部会への参加や部会長からのヒアリングを行い、福祉就労サービスについての課題を集約し、障害者就業・生活支援センターや県と、次年度部会設置に向けた協議を行った。

相談支援専門員の人材育成についても、主任相談支援専門員有志と共に、圏域課題の整理と次年度研修の企画検討を行った。

### 長泉町重層的支援体制整備 準備事業

令和4年度より長泉町の委託を受け、長泉町重層的支援体制整備移行事業の多機関協働事業の任にあたった。準備期間としては2年目となり、実際に相談ケースも上がりケア会議等を行ってきた。

多くの複雑化した世帯課題は制度の狭間であり、官民が協働しなければ共生社会の実現が難しい事を実感し、支援者支援の視点も合わせて体制を検討してきた。

次年度はいよいよ正式事業のスタートとなるため、引き続き当法人の特徴を生かした多機関協働事業を提案していきたい。



## 2. 各事業所活動報告

### グループホーム コーポ狩野

#### 1. 目標及び評価

1. 利用者の「主体性・個別性」と集団生活における「協調性・思いやり」の調和を図りながら、夢の実現を支援する
2. 障害・疾病だけで利用者を見るのではなく、「個」として支援が出来るようスキルアップを図る
3. 感染症や災害に対する必要な対策を講じ、利用者の身の安全と不安に配慮しながら命・暮らしを守る

- ・スタッフミーティングの中で個別支援会議を定期的に行い、個々の支援の検討を行った。年度前半では体調不良や精神的不調により入院者が相次いだ。徐々に落ち着き、新規入所者2名を迎えた。支援の方向性の統一においては課題が残り、会議等検討の機会がありながらも、スタッフにより対応が異なる状況が続いている。
- ・支援に関する研修への参加には至っておらず、スタッフミーティングでの個別支援会議や法人内研修に頼るところが大きい。
- ・施設内研修については感染や災害の訓練は予定通りに開催できたが、BCPの職員周知や訓練は十分でない為、来期の課題とする。

#### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職種	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世話人
人数	1	1	2	5
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/専従	常/非兼務/専従

#### 2. 実績

新型コロナウイルスによる影響が減り、順調に体験利用を繰り返すことが出来、下半期には新規利用者2名を迎えた。各所の協力も得られ、体験利用中より日中の活動先への体験も繰り返し行い、入所後の安定利用に繋がった。町内清掃や祭り等の地域行事への参加も可能となり、施設でのレクリエーションも徐々に拡大した。また、外出の時間制限も解除し、夕食まで外出先で楽しんでくる利用者もおり、余暇を楽しむ姿が伺える。

メンバーミーティングにおいて、スタッフから

の報告や依頼が主体となっていた為、利用者からの意見や要望が挙がるよう心掛けた。徐々に意識の変化を感じられ、利用者同士の会話からも「メンバーミーティングの時に言ってみよう」という言葉も聞かれるようになってきている。生活の主体は利用者である事を再認識し、心地よい住まいとなるようかかわり続けたい。

#### <利用状況> 注:R4.7.1～定員20→18に変更

	R3年	R4年	R5年
定員	20	18	18
利用者数	18	16	17
新規入所者数	1	0	2
退所者数	0	2	1

#### <男女別の入所者数と平均年齢>

	人数	平均年齢	
男性	9名	58.3歳	60.6歳
女性	8名	61.4歳	

#### <入所期間>

入所期間	人数
1年以内	2名
1～3年未満	1名
3～5年未満	3名
5～8年未満	6名
8～10年未満	0名
10～15年未満	2名
15年以上	3名

(令和6年3月31日現在)

#### 3. 総括

支援程度区分は重度化傾向にあり、誤嚥・転倒や失禁など見守りや直接介助を要する場面が増えている。精神的な不調よりも身体的な不調や病気への介入が多くなり、受診同行は主な支援となってきている。

一方で身体疾患の治療をきっかけに家族との交流が再開し、家族が受診同行をして下さるケースもあった。1年に1度、状況報告の手紙は送っているものの、変化の折には直接連絡し、家族のかかわりの機会となるよう支援をしていきたい。

# グループホーム はまゆう寮

## 1. 目標及び評価

1. 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、いいところ（強み）を見つける
2. スタッフ間や関係部署との情報共有を積極的に行う
3. 地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する

- ・生活場面では、目標通りいいところに着目し、個々に合わせた声掛けや見守りの範囲を考え支援を行った。
- ・スタッフそれぞれが主となる役割を持ち、情報共有も工夫して業務を行う事ができた。
- ・感染対策研修や防災訓練等事業所独自で実施したが、地域との協働については地域の防災訓練に参加したのみで、要配慮者として地域の理解を得る所には至らなかった。

### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職種	管理者	サービス 管理責任者	生活 支援員	世話人
人数	1	1	1	5
勤務 形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

## 2. 実績

今年度は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、利用者の皆様にはご不便をおかけした。特に共有スペースについては常にマスクの着用、毎日の体調チェック、食事時間の2部制等、引き続きお願いし理解をいただいた。

入退所では1名が入所、1名が単身生活に移行した。入所は精神科病院から長期入院者を受入れる事となり、十分に体験利用を行う事で入所意向の確認、受け入れ体制の整備ができた。

また退所支援では家族や日中活動先や経済面の調整など、退所に向けた支援は単身生活が始まったその先の人生も含めて組み立てていくが、利用者も支援者も共に不安な中、戸惑いながらも希望を叶える事が出来た。

地域との交流では、毎年地域の公園清掃にスタッフも利用者も一緒に参加し、微力ながらも清掃

活動に協力している。

### <利用状況>

	R3年	R4年	R5年
定員	9	9	9
利用者数	9	8	8
新規入所者数	0	0	1
退所者数	0	1	1

### <男女別の入所者数と平均年齢>

	人数	平均年齢	
男性	5名	50.8歳	53.2歳
女性	3名	55.7歳	

### <入所期間>

入所期間	人数
1年以内	1名
1～3年未満	0名
3～5年未満	1名
5～8年未満	1名
8～10年未満	0名
10～15年未満	2名
15年以上	3名

(令和6年3月31日現在)

## 3. 総括

今年度は久しぶりの入所者にあたり、十分な時間をかけて体験利用を行う事で、利用者、施設とも慣れる事ができた。また、退所者が1名いたが、こちらも計画立案、様々な日常生活上の課題等を一緒に経験し、アパート一人暮らしとなった。

これらの経験から現在入所している利用者にも、少しずつではあるが、生活上の課題を「強み」に着目しながら今後も支援を継続していきたい。それが僅かでもご本人の希望に近づくための力になればと思う。

# グループホーム カーサ岡の宮

## 1. 目標及び評価

1. 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、いいところ（強み）を見つける
2. スタッフ間や関係部署との情報共有を積極的に行う
3. 地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する

- 生活場面では、個々の個性に合わせ、いいところを引き出しながら支援してきた。
- スタッフそれぞれが主となる役割を持ち、情報共有にも顔を合わせた時やノート等利用し、できるだけ共有に努めた。なにかあれば関係機関などへの連絡はできていた。
- 地域の防災訓練への参加や町内清掃への参加は行っている。地域住民として認知もされてきている。  
感染対策の研修は施設内で行った。

### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管理者	サービス 管理責任者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	2
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/専従

## 2. 実績

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが、最低限の感染対策はお願いしてきた。

入退所は1名の入所と女性2名の退所があった。退所者は病気やケガで医療機関に入院となり、当グループホームでは生活が厳しくなったため、高齢者施設への移行となった。

平均年齢からもわかるように高齢化が進み、身体面の病気、ケガから入院し要介護状態となり退所となり得る課題に直面している。

目標にあるスタッフ間や関係部署との連絡連携は様々な工夫をし行なってきた。

地域とのつながりとして、クリーン作戦への参加、防災訓練への参加をし、地域住民としての役割を少しながら果たしている。

### <利用状況>

	R3年	R4年	R5年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	7	8	7
新規入所者数	1	1	1
退 所 者 数	2	0	2

### <男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	4名	54.8歳	61歳
女 性	3名	67.3歳	

### <入所期間>

入 所 期 間	人 数
1年以内	1名
1～3年未満	2名
3～5年未満	0
5～8年未満	0
8～10年未満	1名
10～15年未満	0
15年以上	3名

(令和6年3月31日現在)

## 3. 総括

高齢の利用者が病気やケガで入院、グループホームでの生活が難しくなり高齢者施設へ入居となった2名が退所した。現在も平均年齢は高く、精神面、生活面だけではなく、身体機能に対する見守りや、認知機能の確認などに対してより注意を払う必要がある。そのため支援者も日々情報を共有しながら小さな変化を見逃さないよう声をかけあっている。

日々の生活の中で散歩などリハビリとなる活動を取り入れる等、介護の知識や技術も習得していきたい。

# グループホーム ふじみ

## 1. 目標及び評価

- |                          |
|--------------------------|
| 1. 利用者の希望実現を目指し、応援・援助をする |
| 2. 感染症予防対策を確実に行う         |

## <平均年齢>

ふじみ
57歳

## <職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	世 話 人	看 護 師
人 数	1	1	2	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

## <入所期間>

ふじみ

入 所 期 間	人 数
1年未満	0名
1～3年	1名
3～5年	3名
5～8年	1名
8～10年	0名
10～15年	1名
15年以上	2名

(令和6年3月31日現在)

## 2. 動向

入所者の一人が40歳代だが、その方以外は50歳以上と高齢化してきている。現在介護保険サービスを利用している利用者は2名、定期的な通院同行が必要な利用者は1名いる。

そのため、精神疾患だけではなく、身体科受診が必要かという判断や、身体介助など今まで以上に求められる状況になっている。

コロナ禍の影響はほぼなくなっている状態で、利用者も外出などは自由にしているなか、感染リスクは高まり、今年度初めて新型コロナウイルスの陽性になった利用者がいた。あらかじめ定めていた手順でスタッフが対応をし、他の利用者に感染することはなかった。

## <利用状況>

ふじみ	R3年	R4年	R5年
定 員	11	10	10
利 用 者 数	7	8	8
新 規 入 所 者 数	0	2	0
退 所 者 数	1	1	0

## 3. 総括

数年前から同じ状況が続いているが、利用者は持病を持つ方が多くなり、日頃からの健康管理の必要性を強く感じている。必要に応じて受診同行、医療機関との連携を行った。

幸い身体科への入院や手術にまで至るようなことはなかった。しかし入所は長期化し、利用者も高齢化している中、キーパーソンが不在の利用者が少なからずいるのが現状である。そのため家族とのかかわりをいかに繋いでいくのかは重要な課題となっている。

上記状態の中、現状の設備・スタッフ配置では対応困難な状況も出てきている。

## 相談支援事業所

### サポートセンターなかせ

#### 1. 目標及び評価

1. 利用者の権利擁護の観点を常にもち、丁寧な個別支援と先々を見越した視点に立った適切な関係機関との役割分担・連携の両立を図る
2. ピアスタッフとの協働を通して日頃の職場環境をより働きやすいものとし利用者の利益に繋げる
3. 夜間休日も含めた緊急時の体制整備を行う
4. 事業所・法人・地域それぞれの枠組みでの人材育成を意識した取り組みを行う

#### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援 専門員・サ ピ 管	相談員・支 援 員	ピ ア ス タ ッ プ
人 数	1	4	4	2
勤 務 形 態	常勤/兼務	常/専従・ 兼務	常/非 兼務	非/兼務

#### 2. 実績

##### (1) 相談支援

右図の通り相談内容内訳としては従前と大きく変化はなく、障害福祉サービスの利用に関する内容が半数を占めている。支援方法としては、ここ3年間変化はあまりみられない。計画相談本格導入以後、来所相談と訪問支援の件数が反比例の形となったことと併せて、関係機関の調整が業務時間の大きな割合を占めるようになってきている。

関連した地域性として、近隣市町で新規開設事業所がここ数年で急激に増加しており、その情報の把握が課題となっている。表面的な施設概要の内容に留まらず支援に関わる本質的な各事業所の状況を把握することは、個別の支援に直結するだけでなく地域づくりの観点からも相談支援専門員として意識したやり取りを心掛けた。

##### (2) 自立支援協議会

引き続き、県・圏域・市町それぞれの枠組みの自立支援協議会の活動に積極的に参画した。県・圏域

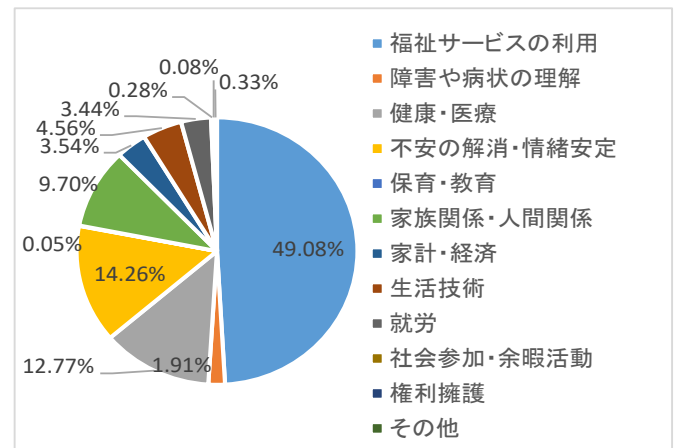
の単位では、ピアサポーターに関わる活動が大きな柱となっている。今後もますますその必要性は高まっていくものと思われ、ピアサポート活動は自法人のみならず地域の共有の財産として裾野を広げる活動に引き続き取り組んでいきたい。

市町単位では、相談部会として市内相談事業所のヒアリング訪問等、具体的な地域課題抽出に関わる活動を行い連続性のある取り組みを意識した。

#### <支援方法>

年度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メ ー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R3	836	137	82	1688	17	90	2733	2	5585
R4	899	133	87	1672	36	62	2957	11	5857
R5	897	99	69	1734	28	77	2940	12	5856

#### <相談内容内訳>



#### 3. 総括

個別の支援と自立支援協議会の活動を主とした地域づくりの活動のバランスを心掛け、常に課題意識を持って工夫できる点を模索しながら取り組んだ。現状業務の大半を占めている計画相談の件数は今後も右肩上がりの傾向は続くものと思われ、従来の形式にとらわれず業務を見直し、数年後を見越した改善を地域・法人内それぞれの枠組みの中で進めていきたい。

## 相談支援事業所

### サポートセンターりりぶ

#### 1. 目標及び評価

1. 個別のケースを通しアセスメントを行い、支援過程や見解を周囲に発信できる力を養う
2. 地域活動支援センターの活動内容をブラッシュアップする視点を持つ
3. 職員一人ひとりが健康で働きやすい環境にするために、日々のコミュニケーションを大事にする

#### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員	生 活 支 援 員
人 数	1	2	3
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

#### 2. 実績

##### (1) 相談支援

今年度も伊東市・熱海市より障害者総合支援法に基づく「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」の委託を受け事業を行っている。

相談支援事業においては委託相談支援、計画相談支援ともに昨年度同様多くの当事者、家族、関係機関から相談をいただく。委託相談支援としては精神症状が主症状という方だけでなく、知的障害、発達障害傾向がある方が社会に適應できない等で精神症状を発症するケース等重複している方もいる。また、時代背景からメンタルヘルス領域からの相談もあり、サービス、制度に繋がるというより、継続的な心理的フォローが必要と感じる相談がある、このように年々相談支援事業所に求められるニーズの幅が広がってきていることを実感する。

計画相談支援としては圏域内のサービスに留まらず、昨年度同様、圏域外のサービスの利用を希望される相談者も増えてきている。

##### (2) 自立支援協議会

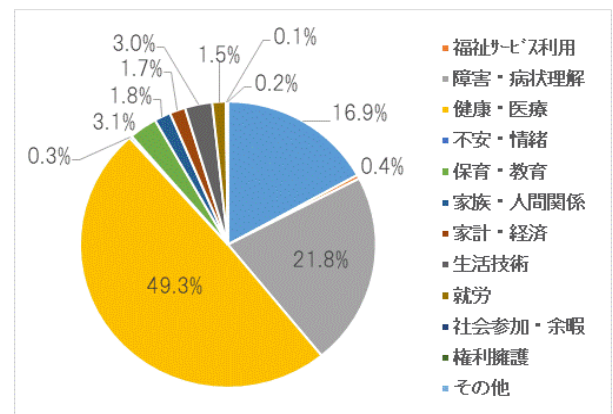
今年度も精神障害部会、地域移行部会の部会長、発達障害ワーキングの担当として協議会に所属。新型コロナウイルスも5類に移行したこともあり、参

集して開催する機会が増えてきた。地域移行部会では家族懇話会や高齢分野との連携をテーマにグループワークを実施する。また、近隣の市町では当事者（ピア）に関する交流会が開催されているが当圏域では実現に至っていない経緯もあり、来年度はピア交流会の開催を目指して企画運営に携われると良いと考える。精神障害部会でも各事業所の個別支援の状況をうかがい、地域の課題を把握し解決に向けて取り組んでいる。発達障害ワーキングでも発達障害コーディネーターの方にも参加いただくことで広域的な面から比較検討する機会に繋がっている。

#### <支援内容内訳>

年度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R3	702	673	93	3848	35	69	2646	3	8069
R4	717	580	81	5074	55	59	2427	1	8994
R5	701	465	77	5598	48	36	2284	0	9209

#### <相談内容内訳> 件数 (※重複あり)



#### 3. 総括

令和5年度は新たに事業所名を「サポートセンターりりぶ」に名称変更しスタートした。令和6年1月1日に発生した能登半島地震やその翌日に起きた日航機と海上保安庁の航空機の衝突事故など全国各地で災害、事故に見舞われ非常に心を痛める出来事だった。改めて災害がいつどこで発生するのか分からない状況の中で、障害のある方を支援する立場の私たちが日頃から取り組むべきことを考え事業を継続できるよう努めたいと思う。



## 相談支援事業所

### サポートセンターほっと

#### 1. 目標及び評価

1. 状況に応じた支援を提供できるように、本人、家族、他機関と現状と支援方針を共有する機会を積極的に設ける
2. 地域移行支援を活用し、退院までのプロセスを病院と協働していける体制を構築する
3. 自立支援協議会への積極的な参加

#### <職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	3
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従・兼務

#### 2. 実績

##### (1) 相談支援

昨年度に引き続き、富士市から委託を受け、「相談支援事業」を行った。相談経路は今までは各関係機関からがほとんどであったが、本人・家族からの直接の相談も増加傾向にある。

また、富士市基幹センターから引き続き依頼があった市内の特定相談支援事業所の勉強会の企画をし、講師を務めた。今年度の新たな取り組みとして地域移行についての周知、各事業所が取り組めることについて話し合う場を圏域で設けた。

「計画相談支援」も継続。事業所に直接利用申し込みでいく方も増えている。その際に、事業所より計画相談の説明があり、新規利用希望者も増えていると思われる。

「地域移行支援」は昨年度から2件継続。新たに1件開始。年度内に2件が終了となった。終了2件はどちらもグループホームへ入所となった。

##### (2) 自立支援協議会

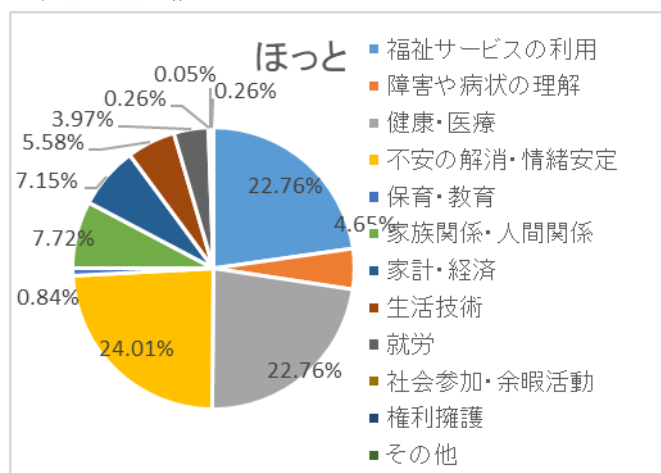
富士圏域の自立支援協議会に参加。富士市障害者自立支援協議会では、前年度より2年間の任期で会長と事務局長を務めた。運営に携わり、代表者会議や全体会議等を実施した。また、障害者週間記念事業のイベントの企画立案から、当日の運営まで担当

し、障害の普及啓発に努めた。さらに子供部会、研修部会のコアメンバーとしても参加した。

#### <支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R3	415	56	67	1628	3	409	1487	0	4065
R4	371	52	60	975	6	381	1046	0	2891
R5	740	98	102	1576	0	475	1661	0	4652

#### <相談内容内訳>



#### 3. 総括

今年度は、コロナ禍の影響も地域生活ではほぼ感じられない一年となった。そのため、相談件数も増え、訪問、来所などの件数も前年に比べて増加している。

また、各地で災害が起きているが富士市でも大雨による浸水などの被害を受けた世帯もあった。改めて、震災等の緊急事態に備えることが必要であると感じさせられた。

自立支援協議会では精神科入院者の退院促進を促すべく、地域での支援者を増やしていけるように働きかけを行った。

## 相談支援事業所

### サポートセンターひまり

#### 1. 目標及び評価

1. 自立支援協議会や三島基幹相談支援センターへ地域課題を積極的に抽出・発信することで、利用者が安心して生活できる環境作りを目指していけるよう取り組んでいく
2. 三島基幹相談支援センターへ主体的に参画し、事業所内での役割分担を行い効率化を図る
3. 自立支援協議会で取り組む『災害対策ネットワーク』へ協力し、災害時の体制作りにも努める

<職員配置> (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員	
人 数	1	2	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/兼務

#### 2. 実績

##### (1) 相談支援

今年度も同様、三島市より委託を受け相談支援事業を行った。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、感染対策を行いながら、より積極的に利用者へ会いに行き、かかわることができた結果、訪問件数も増加。相談内容は前年度と同様、障害福祉サービス、特に就労支援の利用が目立った。加えて、介護保険への移行、母子世帯、経済問題を抱えるケースも増加。関係機関の多様化、必要に応じて同行や連携を図る等の支援も多く、件数に反映されていると感じる。

##### (2) 自立支援協議会

三島市障がいとくらしを支える協議会の運営委員として参加。

昨年度からの『相談&サビ管プロジェクト』に加え、今年度立ち上がった『精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム』のメンバーとして、精神障害に関する地域課題の整理・分析、関係機関との連携体制の構築を目指して、今後新しい取り組みに積極的に参加していきたい。

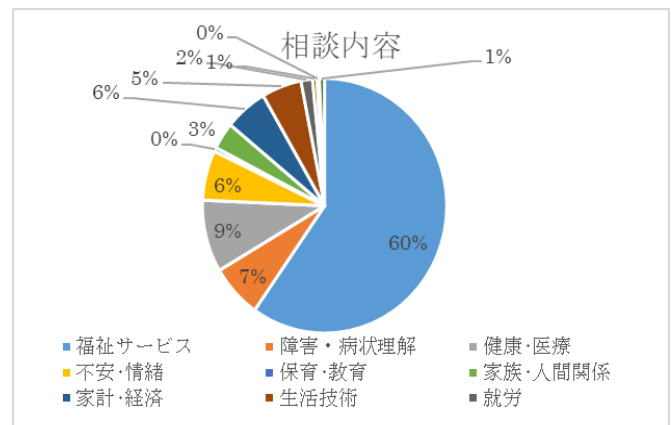
##### (3) 基幹

今年度も三島市基幹相談支援センターは、市から委託を受けた相談支援事業所3か所と共に官民共同体制で困難ケースの対応を行い、連携会議では企画・運営に積極的に参画しながら、三島市内の相談支援体制強化について取り組んできた。

<支援方法>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R3	648	132	62	494	27	121	1422	10	2916
R4	705	172	63	765	48	167	2194	4	4118
R5	968	136	101	799	48	105	2340	11	4508

<相談内容内訳>



#### 3. 総括

今年度も就労支援事業所の変更や新規で障害福祉サービスの利用を希望される方の計画相談の依頼があり対応してきた。年々計画相談の件数が増加してきている印象を受ける。対応する中で、利用者の居宅や通所事業所などへ積極的に赴き、サービス利用時の様子を直接見学することで、生活状況等を把握し安心した生活を送れるよう利用者との関係作り・関係機関とのつながり作りに努めてきた。

また今年度は、介護保険への移行、子育てに課題を抱える世帯、経済的に困窮している世帯への介入など、関係機関が多岐にわたるケースも増えてきた。今後も関係機関との連携や各機関との役割分担を工夫しながら、支援体制の構築に努めていきたい。



## 相談支援事業所

### サポートセンターゆめワーク

#### 1. 目標及び評価

- |   |
|---|
| 1. ピアスタッフと協働しながら地域移行支援に取り組み、当事者が地域で安心した生活ができるよう支援する<br>2. 福祉講座、講演会など積極的に協力し、地域における精神保健福祉の普及に努める |
|---|

＜職員配置＞ (令和5年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生 活 支 援 員
人 数	1	2	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

#### 2. 実績

##### (1) 相談支援

センターへの相談は電話やメール・来所・訪問・サテライト相談会等を通して対応。計画相談は引き続き伊豆の国市、伊豆市の福祉サービス利用者に対して行い、対象者も約120名と年々増加しており、より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力が求められる。

地域移行支援では本年度2件対応。1件はグループホームへ退院。もう1件は地域移行支援の期限が終了となり、委託相談での関わりを継続し、退院支援を継続している状況。今後も利用者の希望やそれを叶えるためにどうしたら良いか、一緒に考えていく支援を意識していきたい。

##### (2) 自立支援協議会

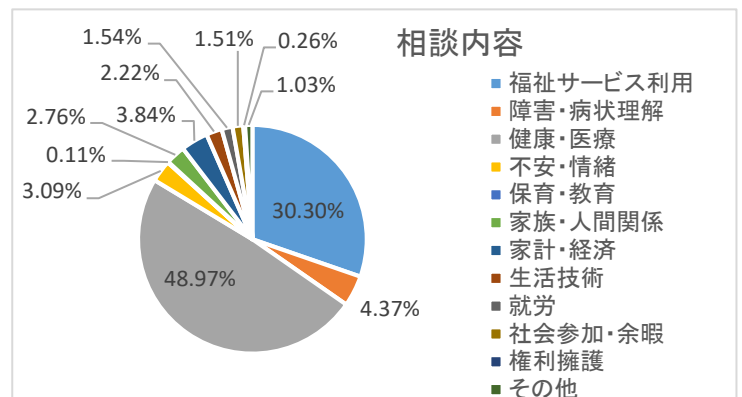
伊豆の国市、伊豆市のそれぞれの自立支援協議会の運営に携わり、地域における障害者支援、啓発活動に貢献した。本年度は伊豆の国市では運営協議委員、精神包括ケアシステム部会長、相談支援事業所部会、地域生活拠点の検討に協力。また市民も参加できる一般報告会においては、ゆめワーク利用者がピアの立場として登壇し、自らの生活ぶりを報告することで、具体的な福祉サービス等について知って頂ける機会となった。

伊豆市でも副会長、相談部会、就労支援ネットワーク部会として関わり、当事者が地域での生活を継続できるかを検討している。また、年6回なんでもかんでも相談会にも協力し、特にメンタルヘルス分野で貢献できるよう努めている。

＜支援内容内訳＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メ ー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R3	550	299	48	1278	7	75	1223	11	3491
R4	518	323	48	1550	9	61	1112	21	3642
R5	648	431	66	1457	47	92	1461	11	4213

＜相談内容内訳＞



#### 3. 総括

計画相談の依頼件数は年々増加傾向、相談支援専門員2名をそれぞれ市担当にすることで移動等の効率化を図り対応。計画相談件数が増加し、求められる対応や様々な相談内容があり、必要なケースワークを行うためには、より関係機関と連携を図り対応していく必要性を感じる。日々の利用者、関係機関との関係性作り、チームで支援することを意識しながら、日々取り組んでいきたい。

また、本年度は自立支援協議会において地域課題を検討するなかで、お金の使い方や携帯電話での課金、決済、詐欺など、経済面に関する課題が多いように感じた。その課題について、次年度自立支援協議会や地域活動支援センターを活用し、勉強会などの取り組みに繋がれば良いと考える。

## 就労継続支援B型支援事業

### 就労支援事業所 田方・ゆめワーク



#### 1. 目標及び評価

1. 利用者個々の障害特性を理解し、利用者がそれぞれの目標達成ができるよう支援する
2. 全職員が工賃アップへの意識を高め、授産製品の開発、販売先の開拓など具体的に取り組む

ここ近年、伊豆の国市、伊豆市及び伊豆箱根鉄道沿線上地域に就労系事業所が急増。最盛期に比べると利用者数は少ないが、個々の障害特性に応じた作業環境の整備や工賃増額、低額の昼食提供などの効果もあり、利用者一人一人の利用率も向上した。一方で自主製品であるパン製造・販売においては小麦粉をはじめとする物価高騰の煽りを受け厳しい状況が続いている。しかし、行政や市内保育園など関係機関の協力もあり、パンの出張型販売や地域イベント等への出店も再開し、工賃アップを可能とする授産収益は達成できた。

また、職員全員がコスト意識を持ち、業務改善を図る事ができたことで、利用者へのサービス向上はもちろん、生活支援にもつながったと思われる。

〈 職員配置 〉 (令和5年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	3名
目標工賃達成指導員	2名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業  
箱折、タオルたたみ、梱包作業、鉄線加工など
- ②パン製造・販売
- ③館内トイレ清掃、建物周辺の外掃除
- ④施設外就労（中伊豆ワイナリーぶどう収穫作業）

#### 2. 実績

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
利用実人数 (人)	25	27	26	20	25
年間開所日数 (日)	247	240	240	246	248
一日の平均利用者数 (人)	14.0	15.4	11.9	10.7	13.5
平均工賃月額 (円) ( ) 内は年間最高額	7,903 (44,550)	10,018 (36,113)	8,388 (30,938)	10,605 (32,938)	17,698 (33,275)
一般就労移行者数 (人)	1	1	0	0	0
(就職先業種)	ホームセンター園芸職員	公園清掃員			

#### 3. 総括

コロナ禍も明け、少しずつ色々な活動が再開できるようになった。新規利用者も増え、一日平均利用者数も2.8人増の13.5人となった。次年度は看板であるパン作業において新製品の開発や積極的なイベント参加を行い、より授産収益の確保に努めるとともに地域への普及啓発としたい。また、今後も一人一人の利用者に寄り添い、利用者が楽しく充実した日々を過ごせるよう支援していきたい。

## 就労継続支援B型支援事業

### 就労支援事業所 かのん



#### 1. 目標及び評価

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>丁寧な個別支援計画の作成と、それに基づいた支援の共有を職員間で徹底する</li> <li>ピアスタッフが安心して働くことの出来る体制を整え、ピアスタッフとの協働による支援の充実を目指す</li> </ol> |
|--|

- 毎朝の申し送りでのケース共有だけではなく、毎月のスタッフミーティング内で個別支援計画に基づいたケース共有を時間をかけて行えるようにすることで、より一人ひとりへの理解が深まってきている。
- 4月～ピアスタッフ2名が入職。これまで利用者が抱いていた、どこかうまく伝わっていないような、気づいてもらえていないようなことに気づき、共感し、相談が出来るという職員が居ることで、利用者も他職員もとても助けられた。それと共に利用者の人権を尊重した質の高い支援にもつながった。

#### 〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	6名
目標工賃達成指導員	2名
ピアスタッフ	2名

#### 〈 作業内容 〉

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>①内職作業<br/>箱折、組立て、自主製品製作など</li> <li>②喫茶・販売作業<br/>「コーヒーショップやすらぎ」営業<br/>「軽食喫茶花のん」弁当製造・販売<br/>沼津市役所「パイン」販売当番</li> <li>③施設外就労<br/>沼津中央病院清掃・ライフセンターよつば清掃</li> </ol> |
|--|



#### 2. 実績

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
利用実人数 (人)	58	55	58	57	51
年間開所日数 (日)	277	278	278	270	279
一日の平均利用者数 (人)	21.5	20.8	21.1	22.1	20.1
平均工賃月額 (円)	7,009	6,823	7,734	10,031	20,017
( ) 内は年間最高額	(33,880)	(25,610)	(24,622)	(29,120)	(30,260)
一般就労移行者数 (人)	0	2	2	3	1
(就職先業種)		農業 製造	医療 教育	小売 福祉施設 福祉施設	福祉施設

#### 3. 総括

今年度は新規利用者が4名、契約終了者7名、就職や入院等により平均利用者数も前年度より微減している。ただ、ピアスタッフの入職や、コロナ禍が明け、地域のお祭りや事業所内でのイベント開催が出来るようになり、利用者や職員に活気と笑い声が戻ってきた。次年度も、利用者の利用目的や目標を職員間で丁寧に共有し、利用者の人権を尊重した質の高い支援を行い、笑顔あふれる事業所運営を行いたい。

## 就労継続支援B型支援事業

### ワークショップまごころ



#### 1. 目標及び評価

1. 利用者1人1人の能力や特性を理解し、支援の視点を共有しながらサービスを提供する
2. 事業所内の各部門の業務状況を把握し、相互に協力し合いながら生産活動を進める

新型コロナウイルス感染症に対する緊張感から少しずつ解放され、利用者も職員も何気ない会話が増えたように感じる。まごころの利用者は家庭環境の変化や自身の病状などにより、週1日、1日数十分、毎日など、利用日数や時間は様々であり、人によっては通所にご家族の協力もいただき利用が継続される方もいる。現在の報酬単価からは厳しい運営となるが、1人1人に合わせた支援は揺るがず行っていきたい。その中で各職員が担当する方々への支援に悩むことも多く、今年度はスタッフミーティング等で報告し、お互いに傾聴、受容、時にはアイデアも出し合う事で利用者の強みを意識した支援を継続する事が出来ていた。2か所での業務に対して配達や販売など効率的な運営を工夫してきたが、人員の不足による応援体制には課題が残った。

#### 〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	5名
目標工賃達成指導員	1名

#### 〈 作業内容 〉

- ①軽作業  
箱折、みかんネット加工、バンド結束
- ②ぷりん・ジェラートの製造・販売
- ③施設外清掃
- ④農作業



#### 2. 実績

年度	R1	R2	R3	R4	R5
利用実人数(人)	38	33	32	35	36
年間開所日数(日)	290	285	292	292	294
一日の平均利用者数(人)	16.3	12.2	12.8	15.5	16.4
平均工賃月額(円)	7,485	7,069	6,885	7,991	15,855
( )内は年間最高額	( 19,560 )	( 20,340 )	( 22,200 )	( 22,200 )	( 25,080 )
一般就労移行者数(人)	4	1	0	1	0
(就職先業種)	食品製造 事務 ビル清掃 食品製造販売	商品陳列		小売業	

#### 3. 総括



今年度は、働くことの次のステップとして就労継続A型や一般企業への就職を希望する利用者もあり、体験やハローワークへの同行なども行ってきたが、一般就職には結びつかなかった。引き続きチャレンジすることへの支援を行っていきたい。また、クオオレの製造や内職作業など、その時の状況に応じて調整が必要な場面が多くあったが、それぞれの担当するスタッフが工夫し、協力して対応することが出来た。



## 地域活動支援センター事業

### サポートセンターゆめワーク

#### 1. 目標及び評価

1. ピア活動と連動しながら、ピアサポーターやボランティアの育成に取り組む
2. 利用者の主体性を尊重し、個々の目標やチャレンジしたいこと等を活動に取り組めるよう工夫する

#### 〈プログラム内容〉

創作活動、ラジオ体操、ウォーキング、料理教室、買い物ツアー、エコキャップ清掃、映画鑑賞  
季節行事（初詣、花見、納涼会、クリスマス会等）、  
地域交流活動（ピアスタッフとの交流）、健康講話、  
防災訓練、文化祭、田方福祉村清掃など

#### 2. 実績

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
利用実人数	61	31	29	26	25
年間開所日数	238	241	240	241	241
一日の平均利用者数	9.6	4.6	4.8	4.6	4.6

#### 3. 総括

コロナ禍も明け、少しずつグループ活動を再開。喫茶活動や買い物ツアーなども小規模で実施し利用者から好評であった。周辺に就労系事業所が増えた影響もあり平均利用者は以前に比べだいぶ減少したが、個別に交流できる時間も増えた。毎月1回、ピアスタッフと協働しながら茶話会を開催し、日常の悩みや不安などを当事者同士で話し合えた。今後も当事者主体の活動を支えていきたい。



## 地域活動支援センター事業

### サポートセンターりりぶ



#### 1. 目標及び評価

地域活動支援センターの活動内容を  
ブラッシュアップする視点を持つ

#### 〈プログラム内容〉

趣味・創作活動（塗り絵、タブレットでゲーム、  
YouTube で動画視聴、カードゲーム、新聞・読書）  
スポーツ（ウォーキング、卓球）、地域交流活動（ピア  
スタッフとの交流）、DVD鑑賞会、防災訓練、  
季節行事（初詣、花見）、秋ふく祭り

#### 2. 実績 ※サテライト伊東（月2回実施）

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
利用実人数	76	74	69	65	59
年間開所日数	235	226	221	243	241
一日の平均利用者数	10.5	7.8	8.0	8.0	6.4

#### 3. 総括

昨年度と比べプログラムも感染対策に留意しながらセンター内でのイベント、外出等も取り入れることができるようになった。平日は比較的用户者が少ない傾向があるが、土曜日は日中活動先や仕事か休みであるためか利用される人数が平均10名以上となってきた。また、月に1回ピアスタッフ来所日に合わせて利用される方も定着してきた。令和6年度も利用者が希望する外出レクリエーションも積極的に取り入れること、一方、災害や防災を想定した訓練や日頃の備え等リスクマネジメントにも留意しながら、地域活動支援センターが地域にあることの存在意義を発信していきたい。



## IV 地域貢献活動

### (1) 精神保健相談

事業所別	回数	内容	担当	主催又は後援
サポートセンターゆめワーク	年6回	伊豆市サテライト相談会	池田友美 青木大輔	伊豆市
サポートセンターゆめワーク	年6回	伊豆市なんでもかんでも相談会	池田友美 武井紗知 青木大輔	伊豆市
サポートセンターなかせ	年12回	沼津市障害者専門相談会	内藤治子	沼津市社会福祉協議会

### (2) 講演開催状況 (講師)

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R5. 8. 8, 9	静岡県男女共同企画センター	静岡県精神障害者ピアサポート研修 基礎研修	石川淳 山崎将展	静岡県
R5. 8. 23	静岡県総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木伸二・石川淳・ 山崎将展 澤野文彦	静岡県精神保健福祉センター
R5. 10. 26, 27	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研修 専門研修	石川淳 山崎将展	静岡県
R5. 11. 20	伊豆の国市大仁庁舎	伊豆の国市精神保健福祉メンタルヘル ス懇話会	小山千菜美 杉山美幸	伊豆の国市地域自立支援 協議会
R5. 12. 12	ウェルピアながいずみ	ピア meets ピア	石川淳 山崎将展	駿東田方圏域自立支援協 議会
R5. 12. 22	函南町役場	ピア meets ピア	石川淳 山崎将展	駿東田方圏域自立支援協 議会
R6. 1. 11	裾野市役所	ピア meets ピア	石川淳 山崎将展	駿東田方圏域自立支援協 議会
R6. 1. 19, 26	静岡県総合社会福祉会館	主任相談支援専門員研修	鈴木伸二	静岡県
R6. 1. 30, 31	静岡県男女共同企画センター	静岡県精神障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修	石川淳・山崎将展 牛島聖美	静岡県
R6. 2. 10	伊豆の国市アクシスカつらぎ	伊豆の国市自立支援協議会一般報告会	杉山美幸	伊豆の国市地域自立支援 協議会
R6. 3. 12	静岡県下田総合庁舎	支援者が知っておきたいピアサポート基礎知識	鈴木伸二・石川淳・ 山崎将展	賀茂健康福祉センター
R6. 3. 15	静岡県東部総合庁舎	駿東田方圏域地域移行部会研修	鈴木伸二	東部健康福祉センター

### (3) 公的機関の医療・福祉活動への協力

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部健康福祉センター	鈴木伸二
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	鈴木伸二
沼津市障害者自立支援協議会 地域移行部会	部会長	沼津市	澤野文彦
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤治子

裾野市障害支援区分判定審査会	審査委員	裾野市	杉山智子
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海健康福祉センター	秋津崇史
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	鈴木伸二
伊豆市地域自立支援協議会	副会長	伊豆市	青木大輔
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議・運営委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調査員	伊豆の国市	小山千菜美 武井紗知
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部会長	富士市	田尻ゆき
富士市障害者自立支援協議会	会長	富士市	長谷川真美
富士市障害者自立支援協議会	事務局長	富士市	田尻ゆき
清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子

#### (4) 実習受託

区 分	委 託 施 設 ・ 機 関 等	事 業 所	担 当 者
伊豆の国市民後見人養成研修	伊豆の国市社会福祉協議会	ゆめワーク	青木大輔
特別支援学校産業実習	沼津特別支援学校伊豆田方分校	ゆめワーク	青木大輔
看護学校臨地実習	御殿場看護学校	就労支援事業所かのん	杉山智子
看護学校臨地実習	静岡医療センター附属静岡看護学校	就労支援事業所かのん	杉山智子
看護学校臨地実習	沼津市立看護専門学校	就労支援事業所かのん	杉山智子
看護学校臨地実習	静岡県立看護専門学校	就労支援事業所かのん	杉山智子
特別支援学校職場実習	静岡県立沼津特別支援学校	就労支援事業所かのん	杉山智子
精神保健福祉士養成課程援助実習	東京福祉保育専門学校	就労支援事業所かのん	杉山智子

#### (5) 大学・看護学校への講師派遣

区 分	施 設 名	事 業 所	講 師
看護学校	沼津市立看護専門学校	ゆめワーク なかせ	青木大輔 小山千菜美 山下圭美 石川 淳
大学	静岡福祉大学	社会復帰事業部	澤野文彦

#### (6) 受託事業

所 属	受 託 事 業 名	担 当 者
サポートセンターなかせ	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業	牛島聖美
サポートセンターなかせ	長泉町重層的支援体制整備準備事業	牛島聖美

## V 教育研修

### 業務管理及び研修出張

年月日	内 容	氏 名
R5. 6月～8月	精神保健福祉業務基礎研修会	赤堀元香
R5. 7. 11～7. 13	就業支援基礎研修	赤堀元香
R5. 8. 4	精神保健福祉業務関連職員研修会	大森淳子
R5. 7/19. 7/20. 9/6. 11/8. 11/9	相談支援従事者初任者研修	伊藤悠美子
R5. 8. 25	共生社会 教育現場から考える	田尻ゆき
R5. 8月～R6. 2月	静岡県精神障害者ピアサポート養成研修 (基礎・専門・フォローアップ)	田邊結佳・杉山智子
R5. 9/16. 10/31. 12/25	相談支援従事者現任研修	石田由貴
R5. 10. 16	家族のための精神保健福祉講座	笹原紀子
R5. 10. 19～20	静岡県サービス管理責任者等基礎研修	上柳光
R5. 11. 17	改正障害者差別解消法内閣府説明会	青木大輔
R5. 11. 13	静岡県サービス管理責任者等更新研修	池田友美
R5. 11. 21	静岡県サービス管理責任者等更新研修	青木大輔
R5. 11. 29	静岡県サービス管理責任者等更新研修	杉山智子
R5. 12月	令和5年度静岡県障害児・者福祉サービス事業者説明会 (集団指導)	牛島聖美・勝又美智子 青木大輔 長谷川真美・杉山智子 鈴木伸二・澤野文彦 秋津崇史・伊藤田恵子
R5. 12. 4	静岡県衛生従事者養成講習会	青木大輔
R5. 12. 4	静岡県自立支援協議会地域移行部会研修	伊藤田恵子・小山千菜美 鈴木伸二・石川淳・山崎将展 秋津崇史・澤野
R5. 12. 6	静岡福祉大学就職説明会	武井紗知
R5. 12. 11	静岡県安全運転管理者講習会	青木大輔
R5. 12. 26	発達障害者就労研修	長谷川真美
R6. 1/9. 1/10. 1/18. 1/19. 1/26	主任相談支援専門員研修	伊藤田恵子・秋津崇史
R6. 2. 2	静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修	伊藤田恵子
R6. 2. 6	静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修	山田典子・伊藤悠美子 望月典子
R6. 2. 7	静岡県虐待防止研修	武井紗知
R6. 2. 16	災害時のリスクマネジメント講座 (オンライン)	石田由貴
R6. 2. 23	静岡県地域定着支援センター触法障害者支援啓発研修	青木大輔・小山千菜美
R6. 3. 7	伊豆の国市虐待防止研修会	小山千菜美・高橋和子



## VI 令和6年度 事業計画

### 1. 事業部全体

#### 運営方針（事業部）

誰もが自分らしく暮らす事の出来る地域共生社会の実現を目指す。

そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、障害者に寄り添う包括的な支援を行う。

また、地域や障害者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員とともにデザインする事で、チーム意識ややりがいを持てるような、組織の強化に取り組む。

#### 重点目標

- ① 障害者の人権を守るために何が出来るかを常に考えた支援を行う
- ② ピアスタッフの価値を発揮できる環境の整備
- ③ 災害・感染対策の見直しと地域との協働
- ④ 人材育成や人材確保の体制整備

#### (1) 相談支援・地域活動支援センター事業

- ① 目の前の個別クライアントのかかわりから個別の課題だけでなく地域の課題に対する意識を持ち、希望する生活を支援するために制度の理解を深め、社会資源を活用・コーディネートに取り組む
- ② ピアスタッフ・ピアサポーターとの協働、啓発活動を通して権利擁護の観点を意識し、各市町の実情を把握しながら各々の特徴に合わせた精神障害者にも対応した包括ケアシステムを意識した地域作りに積極的に参画していく
- ③ 災害時や日常生活内での緊急時に備え、地域生活支援拠点事業の活用など地域の実情に合わせた緊急時の支援体制を整備し、法人内においても相談支援事業所間の情報共有・連携を図りながら柔軟に対応できる相談支援体制の構築を目指すとともに、個々の相談支

援専門員のスキルアップを図るなど人材育成の視点を持つ

- ④ 地域活動支援センターにおいては、地域の状況や特徴、利用者のニーズ等踏まえ事業を展開し、障害者に限らず地域住民に地域活動支援センターの機能や役割の周知、啓発を意識する。また、憩いの場の活動内容の工夫、仲間づくりとしての機能が果たせるようピア（当事者）が主体となり活動をサポートするよう努める

#### (2) 共同生活援助事業（グループホーム）

- ① 生活をする場として、安心でき、居心地の良い場所を提供できるように努めていく
- ② 利用者それぞれの状況を見ながら、個人にあった支援ができるように職員間できちんと情報共有をし、支援方針を話し合い、より良い支援ができるようにスキルアップを目指していく。また、将来的な希望などを本人と共有し、実現に向けて支援を行うことができるようにする
- ③ 地域でのお祭りや清掃活動、防災訓練などに参加し、地域に積極的に出る機会を持ち、地域住民としての役割を果たせるようにする

#### (3) 就労支援事業（B型）

- ① 利用者が安心安定して利用継続できるよう、ピアスタッフや関係機関との連携を図りつつ、個別の特性に応じた支援体制を築く
- ② 職員は研修参加や事業所内での勉強会を通じて自己研鑽に励み、障害特性や就労支援の理解を深めるとともに、ハラスメント及び虐待の防止に努める
- ③ 市の社会福祉大会など地域活動に積極的に参画し、自主製品の売り上げ及び工賃向上に努めるとともに、障害者福祉に関する普及啓発に取り組む
- ④ 感染及び防災対策を見直し、事業継続可能な体制を構築するとともに、利用者・職員が安心して過ごせる職場環境を整備する

## 2. 各事業所 事業目標

### 【共同生活援助】

#### グループホーム コーポ狩野

- ①利用者の「主体性」と集団生活における「協調性」の調和を図りながら、夢や希望を叶えられるよう支援する
- ②スタッフ間の支援の方向性の統一を意識し、申し送りやスタッフミーティングを有効活用出来るようにする
- ③感染症や災害に対する研修や訓練を定期的に行い、利用者の暮らしを守ることに備える

#### グループホーム はまゆう寮・カーサ岡の宮

- ①利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、いいところ（強み）を見つけ、スタッフ間、関係機関と情報共有する
- ②利用者が安心して居心地良く過ごせるよう、スタッフがスキルアップを目指す
- ③地域住民と関係を保ちつつ協働した感染や災害対策訓練を実施する

#### グループホーム ふじみ

- ①利用者の希望を確認し、実現に向けた情報提供をし、状況に合わせた支援をする
- ②利用者の特性や高齢に伴う変化に応じた個別性の高い支援に取り組めるよう職員と情報共有を行う
- ③感染や災害について、研修や訓練を通じ知識を付け、対策・予防に努める

### 【相談支援事業

#### ・地域活動支援センター】

#### サポートセンターなかせ

- ①利用者の意思決定支援を意識した視点を常に持ち、関係機関と適切な時期・内容で連携を図る
- ②ピアスタッフとの協働機会の創出と職場環境の整備
- ③緊急時の対応に関する体制整備
- ④事業所・法人・地域それぞれの枠組みに適合した人材育成の具体化を図る

#### サポートセンターりりぶ

- ①利用者の「伸びしろ」を信じた支援をする
- ②個人だけでなく世帯全体や地域にも着目、想像しながら、他機関とも連携する
- ③自然災害、感染対策を想定した日頃の備えと、利用者への対応含め職員一人ひとりの意識向上を図る

#### サポートセンターほっと

- ①高齢者世帯・単身世帯増加に伴い、緊急時対応を事業所に求められることが多くなった。その際の各所との連携が取りやすいような関係づくりと体制整備を進めていく
- ②事業所内で情報共有をスムーズにし、業務について話し合える体制づくりを行う

#### サポートセンターひまり

- ①利用者が安心して生活できる環境作りを目指していけるよう、地域課題を積極的に抽出・発信していく
- ②ピアスタッフと協働できる体制作りに努める
- ③災害等の緊急時に備えた体制作りに引き続き努める

#### サポートセンターゆめワーク

(相談支援事業)

- ①ピアスタッフと協働しながら地域移行支援に取り組む、当事者が普通に暮らせる地域づくりに努める
- ②福祉講座、講演会など積極的に取り組み、精神保健福祉及び障害者の人権の普及に努める  
(地域活動支援センター事業)
- ③ピア活動と連動しながら、ピアサポーターやボランティアの育成に取り組む
- ④有事には当事者の方々の支援拠点になれるよう、日頃から地域と連携しながら大きな災害に備える

## 【就労継続支援B型】

### 田方・ゆめワーク

- ①個別支援計画に基づき、チームとして支援が出来るよう障害特性の理解を深め、適切な支援方法について学ぶ
- ②事業所全体で工賃アップへの意識を高め、魅力ある授産製品の開発、販売先の開拓など具体的に取組む

### かのん

- ①個別支援計画に基づいた支援の徹底のため、毎月職員間での情報共有の時間をもうける
- ②ピアスタッフが力を発揮できる環境を共に考え、ピアスタッフとの協働による支援の充実を目指す

### ワークショップまごころ

- ①個々の利用者に対し協働で支援を行い、望む暮らしに近づけるようサービスを提供する
- ②ヒヤリとした事を見逃さず、感染や事故を未然に防ぐ意識を持つ
- ③現状で出来る工夫やアイデアを各職員で出し合い、働きやすい環境を作る